

えひめ

この夏、イベントへありがとう。

■ 報告 みなとウォッチング 松山港・今治港

みなとオアシス 八幡浜・伯方

港湾関係功労者表彰

事業現場から

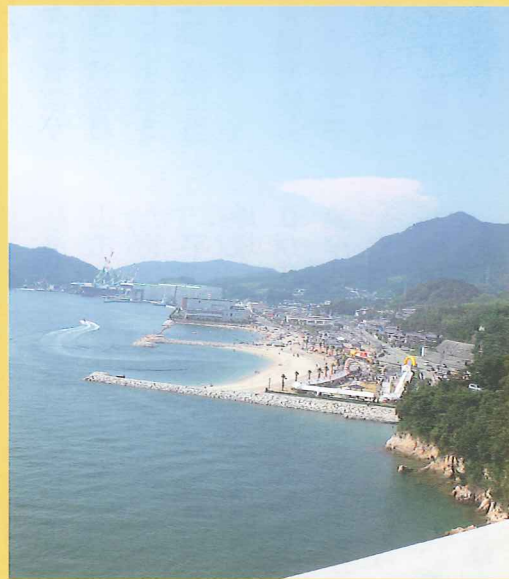
■ お知らせ 今秋の出展イベント

海面清掃兼油回収船いしづち緊急出動
松山空港GSE通路竣工
松山港海岸和気地区和気浜海岸清掃



今治港みなとウォッチング

「やわたはま海鮮朝市」八幡浜港



「しま祭り in はかた」枝越港



松山港みなとウォッチング

写真右上・下・左上・下へと順に
アイロット職員に引率され、見学に
向かう一行。手前から倉庫棟、奥が
冷凍冷蔵庫棟。各施設の役割と機能
の説明を受けながら、広大な施設
の中を進んだ。／倉庫棟3階から松
山港外港地区を望む。正面に見える
のが新埠頭コンテナターミナル。同
ターミナルは平成13年3月から岸壁
（水深－10m）が暫定供用され、現
在は韓国・中国・東南アジアの諸国
と定期航路で結ばれている。品物が
詰められたコンテナを積み下ろし
ている赤いクレーンはガントリーク
レーン。青いトランスファークレーン
は荷さばき地に集められたコンテナを
整理整とん。／冷凍冷蔵庫棟にて／
倉庫棟にて。



アイロットを後に
した一行は、次は当
所棧橋からクルージ
ングに出かけました。



写真左：いしづちの作業見学をしながら、海洋環境
の美化について語り合った。写真右：陸揚げ作業見
学を終え、クルージング船は外港地区新埠頭へと向
かった。背後に見えるのは内港地区（梅津寺）。



あいにく、荷役作業は終了し
た後でしたが、世界各地から運
ばれてきた色彩豊かなコンテナ
や埠頭にそびえる赤いガント
リークレーンや青いトランス
ファークレーンのスケールの

深マイナス13メートル）を見学
しました。

「いしづち」の作業見学の後、
クルージング船は外港地区新
埠頭コンテナターミナルへ。今
年3月に延伸工事が完成した吉
田浜防波堤（延長950メー
トル）の付近からコンテナター
ミナルと現在施工中の岸壁（水
深マイナス13メートル）を見学
しました。

本日は海面清掃兼油回収船「いしづち」が
回収したごみの陸揚げを行っているとのこと
で、まずは外港地区の作業現場に向かい、甲
板からその様子を見学しました。
ごみ回収コンテナ3ケース（合計52立方メー
トル）のうち本日の作業最後の
1ケース目がちょうど陸揚げさ
れているところで、見学者はカ
メラのシャッターを盛んに切っ
ていました。

さあ、クルージングに出発

松山港 みなとウォッチング

ようこそ、さあ見学会に出発しよう
平成18年8月2日（水）、松山市内の小学生
とその保護者を対象に松山港周辺で「松山港
みなとウォッチング」を開催しました。
早朝より広がる晴天のもと、徐々に気温が
上がり始めた8時半、定員100名に対しお
よそ3倍に及ぶ応募の中から当選した小学5
～6年生とその兄弟姉妹が保護者と一緒に当
所に元気に集合しました。
早々に受付を済ませた見学者は会議室にお
いて当所の事業を紹介したパネルや飼育中
のカブトガニを見学しました。そしてバス3
台に分乗し、愛媛国際物流ターミナル（略称
I・LOT（アイロット）、松山市大可賀※2）
の見学に向かいました。

みんなの暮らしと

愛媛国際物流ターミナル

アイロットは、愛媛県の「愛媛県地域輸入
促進計画」に基づき、県下とその周辺の地域
経済の産業を盛んにする目的で、愛媛県、松
山市のほか民間事業者の出資により設けられ
た物流施設です。

平成8年1月より開業し、翌月、総合保税
地域（関税法による）の許可を受け、約54、
000平方メートルの敷地内には倉庫棟や冷
凍冷蔵庫棟、植物燻蒸所等が建ち並び、建物
とその付近に設けられたトラックヤードの周
囲に場内道路が巡らされています。

施設の中では貨物の荷さばき、仕分け、保管
加工等が一貫して行われており、現在約15

港湾関係功労者表彰

平成18年7月当所長より2者（1団体・1個人）を
表彰しました。まず表彰されたのは「新川なぎさ会」の
みなさん。新川海岸（伊予市）の清掃を13年間ボラン
ティアで行ってきました。16日、同市内の「一斉清掃」
に合わせ同海岸で感謝状を授与しました。

続く表彰は25日当所にて行われ、「優良工事技術
者」として（株）テトラ四国支店に勤務する千島 弘光
氏を表彰しました。松山港外港地区護岸（防波）築造



工事の現場代理人を勤
め、施工を指揮し、同工
事を高いクオリティと優
れた出来映えに導いたそ
の功績を讃えたことによ
るものです。

（写真は25日表彰式）

※1 出典：気象庁HP（<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>「平成18年の梅雨入り・明けと梅
雨時期の特徴について」、http://www.data.kishou.go.jp/yohou/kaisetu/baiu/kako_baiu05_kikankousui.html「代表地点における梅雨期間降水量（参考）：高松」）

※2：愛媛国際物流ターミナル＝EHIME INTERNATIONAL LOGISTIC TERMINAL＝I・LOT

国土交通省四国地方整備局
松山港湾・空港整備事務所

所長 岡林 昭夫



所長挨拶

虫の音も昼から夜へと移り、ずいぶん過ぎやすい
季節となりました。読者の皆様におかれましては、秋
の夜を楽しまれていることと存じます。

さて、少し季節が戻りますが、今年の梅雨は例年
に長く感じました。例年夏前には松山市にあっては
渇水が心配されるものの、今年ばかりは南国高知出身
の私のみならず、皆様も太陽を恋しく思ったことと思
います。また、児童・生徒さん達も夏休みに入ったに
もかわらずセミの鳴き声が聞こえない、拍子抜けの
一週間を過ごされた方もいらっしゃるのではないで
しょうか。

四国の梅雨明けについて過去20年間では市内の小中
学校が終業式を迎える7月20日以降となった年は今年
を含めて7回あり、梅雨の期間の長さという点ではそ
れほど珍しくはないようですが、梅雨の降水量におい
ては昭和63年の533.5ミリに次ぐ424.5ミリを記録（い
ずれも観測地は高松、データ出典は※1参照）しており、
久々の大雨だったそうです。幸い梅雨期間中の愛媛県
内の港湾施設への被害は報告されておりませんが、台
風期の終盤にさしかかり一昨年の被害を教訓として十
分な対策をとっておきたいと考えています。

また、18年度も上半期を過ぎましたが、前号で紹介
しました港湾整備を含む5事業はお陰様で順調な整
備の事業進捗がなされており、これも関係各位のご理
解と協力によるものと感謝申し上げます。

本年3月にリニューアルした本誌も創刊3号を迎え
ます。本号はみなとをより身近に感じていただきたく、
毎年夏に開催しております当所主催の「みなとウォッ
チング」をはじめとして、県下の港とその周辺で行わ
れた夏のイベントを中心にご紹介しております。どう
ぞご愛読下さい。

大きさと鮮やかさに見学者は目を凝らし、こちらでも盛んにシャッターを切る音が聞かれました。

時折、心地良い風が吹く甲板からは高度を上げる航空機の姿も認められ松山空港が間近

であることも確認できたようです。

外港地区を後にしたクルージング船は興居島の西沖を通り松山港海岸和気地区（和気浜・堀江浜）の見学に向かいました。

途中、操舵室を見学しました。

見学者はクルーから操舵室に設置されている航海計器をはじめとした機器の説明を受けながら、目の前に開けて行く海原の景色を楽しんでいました。

釣島水道を通り、松山港海岸和気地区の堤防改良（夏季利用者のため、当日は工事は休止中）の様子を沖から見学し、およそ1時間30分後、当所棧橋に帰港、見学会のコースは無事全日程終了しました。



写真上：松山港外港地区新埠頭コンテナターミナルを望む。
写真下：クルージング船にて操舵室の見学の様子。

船中では当所職員が見学場所に関する事業説明をテレビモニターに写真や図版を映しながら行い、ご好評いただきました。

印象的だったのは、陸上・海上とも見学ポイントにずっと佇んでいた子供たちがいたこと。

海に関心がある。海が好き。海を大切にする。そんな子供たちが増えてくれますように。

棧橋を後にする子供たちの姿に思い、また、見学に訪れたみなさんにご協力いただいたことや、イベントを支えて下さったアイロツトやクルーの皆様に感謝しながら、見学会第一日目を終えました。

今治港からクルージングに出発

続く第2日目は平成18年8月4日（金）、今治港としまなみ海道周辺で「今治港みなとウォッチング」を開催し、今治市内の小学生とその保護者（定員70名）をクルージングに招待しました。

「今日も暑いですね・・・。」

この日も早朝よりまぶしい晴天。

港湾ビル前でスタッフ同士挨拶を交わしていると招待された小学生が保護者と一緒に元気に集合しました。

今治港第一棧橋前で当所副所長が開会の挨拶を述べ、見学者とスタッフは2隻

に分乗し、クルージングに出発しました。

沖から見た

今治港

船内で当所

職員が今治港の役割を説明



写真上：「ようこそ、楽しいクルージングを。」今治港第1棧橋前にて開会の挨拶の様子。写真下：出港直前の2隻（写真左側）。背後に旅客フェリーが見える。ここ、今治港（今治地区）から瀬戸内海の諸島と関西・九州方面に旅客と車を運ぶ船が出発する。

人々が集い、憩う港に

「みなとオアシス」

大島大橋下を通過するとまもなく枝越港が現れました。同港は港とその周辺施設を活用し、地域振興を図る「みなとオアシス」制度に平成16年登録され、さまざまなイベントが行われてきました。船窓からビーチや周辺施設を見学しながら、その取り組みの一環として行われている催しなどを紹介しました。

瀬戸内の航行を支える

開発保全航路

大三島橋にさしかかる頃、両舷から伯方島と大三島が大きく見え始めました。

船が進んでいる場所は鼻栗瀬戸航路といい、国が整備を行う航路で（このような航路を開発保全航路といいます）、来島海峡航路と併せてその利用や現在行われているメンテナンスについて説明しました。多々羅大橋で折り返し、しばらく進むとやがて来島海峡大橋が見えてきました。

海面清掃兼油回収船

「いしづち」クレーン作業

瀬戸内海は閉鎖海域であるため浮遊ごみや油の回収を行うことによりその美しさと航行の安全が保たれています。当所が担う海洋環境整備事業を紹介し、波方沖で「いしづち」

に搭載されたクレーンが流木を掴み上げる様子を見学しました。



来島海峡航路を通過し、

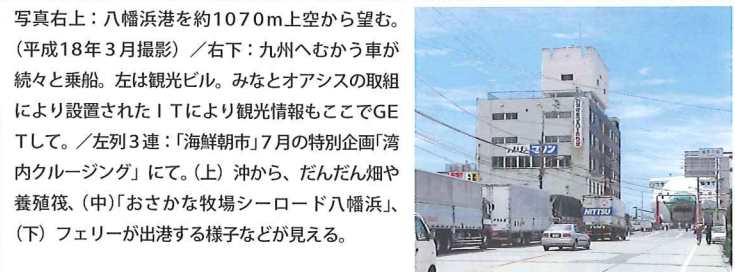
今治港第一棧橋に約二時間半のち帰港、見学会は終了しました。

参加したみなさんにとっても普段見知っている陸側からの景色も沖から見るのは新鮮だったようで、また共に新たな発見と親しみを持つて参加していただける機会をと思いつつ、港を後にしました。

今治港 みなとウォッチング

写真左上から時計まわりに：潮流の方向（N＝北）を知らせる長瀬の鼻の電光式信号。／航路の説明のほか、船窓に現れた船や標識など海事関連の説明も行われた。／アーチ型の大三島橋をくぐり、鼻栗瀬戸航路を進む様子。／貨物船・小型船などが輻輳する来島海峡。西水道に設けられた来島海峡航路にさしかかろうとするところ。

写真上から順に：富田地区（水深－10m）岸壁で荷役の様子。／その荷役を船窓から見学。／富田地区で延伸中の防波堤を見学。



写真右上：八幡浜港を約1070m上空から望む。(平成18年3月撮影)／右下：九州へむかう車が
続々と乗船。左は観光ビル。みなとオアシスの取組
により設置されたITにより観光情報もここでGETして。／左列3連：「海鮮朝市」7月の特別企画「湾
内クルージング」にて。(上) 沖から、だんだん畑や
養殖筏、(中)「おさかな牧場シーロード八幡浜」、
(下) フェリーが出港する様子などが見える。
写真左上・中・右「海鮮朝市」定番企画。(7月撮影) 左：ハワイアンスチールギターの流麗な生演奏とともに「朝
市食堂」とバーベキューコーナーで八幡浜の味を。中：「お魚さばき方教室」では真鯛の湯引きの作り方が披露
された。右：「ミニセリ」の開始直後の様子。この日はカンパチ・カツオ・アジ・タチウオ・タイ・スルメなど
10ケースが10分くらいで競り落とされた。／左下：列をなして「海鮮丼」を求める人々の様子。(9月撮影)



「みなとオアシス」は地域振興を図るため港とその周辺施設を人々が集い、憩う場所として登録する制度。当所はその試みをサポートしています。

「お客様からの要望は？」
「メニューのレシピについてお問い
合わせがあり、お教えしています。
中でも果物を使ったソースや野菜の
ケーキは大評判でした。(山岡さん)」
「近年スローフード嗜好が高まっ
ていますが、事業コンセプトも含め
てお客様に伝えたいものは？」
「伯方島の作物の旬を知っていた
きたい。(山岡さん)」そして味わい
ながら、そのエネルギーで元気に
なってください。(西部さん)」
8月14日同港で開催された「しま
祭りinはかた」(主催：はかた夏ま
つり実行委員会)に同懇談会からも
模擬店を出店しました。今回の「し
ま祭り」はショーやコンサート、盆
踊り大会が催され、およそ5,000
発(※6)の花火が彩りをそえ、およ
そ2万人(※5)が来場したそうです。
盆休み中のためか大勢の家族連れの
姿も見られました。
次回は港の秋か
ら冬の風物をレ
ポートします。



「愛の地産地消レストラン」で8月に提供された「はまんぼご膳」。海鮮天ぷらに添えられたサザエが
涼をさそう。夏野菜トマトは天ぷらのほか、デザートにも使用された。その驚きとおいしさ。
(メニューは毎月変わります。お問い合わせはマリンオアシスはかたTEL0897-72-3300)

前出の「ビジョン」に基づき、
従来の機能に加え、衛生・防災・
その他海のレジャーの利用に優
れた施設へと生まれ変わるため

現在各施設の整備も進められていま
す。
今年8月同協議会は同港における
「フェリーターミナル関連施設」の

整備に関するデザインについてコン
ペティション方式による募集を一般
に開始し、下旬には同市庁舎におい
て説明会や市内の小中学生に募集案
内も行いました。
官民共同でまた一つ新たな取り組
みが始まりました。
(右記のコンペに関する
お問い合わせは、
八幡浜市役所水産港湾課内
八幡浜港みなとまちづくり協議会
事務局
TEL0894・22・3111
FAX0894・24・6180)

八幡浜港は九州臼杵・別府と
の間を一日20便のフェリーが発
着する旅客ターミナルで、昨年
はおよそ48万人の旅客(旅客数
は八幡浜市へのヒアリングによ
る。)が利用しました。水揚量
12,334トン(※3)を誇
る漁港も隣接しています。
港の周囲に広がるだんだん畑
は柑橘類の栽培が盛んで、全国
に誇る数々のブランドを送り出
してきました。
港の背後に続く町並みは八幡
浜市の商業・産業を支えてきた
明治から昭和の建築物が姿をと
どめ、歴史を伝えています。
同市では港の機能とその周辺
の豊かな産業資源を生かし地域
の活性化を図るため、平成12年
5月「特定地域振興重要港湾」
に選定されたのに併せて、その
将来像について有識者や国・
県・市、その他港湾事業関係団
体による委員会や地域住民を交
えた懇談会による提言や検討を
行い、平成14年に「八幡浜港港
湾振興ビジョン」を策定、以来
これに基づく取り組みを、新市
(平成17年3月保内町と合併)
後も継続しています。

※3：出典『平成16年 水産物流通統計年報』(農林水産省大臣官房統計部 編集) 108～133頁より引用。

平成14年から始まり、現在は同協
議会も参画する「やわたはま海鮮朝
市」は毎回5,000人(※4)が買
い物に訪れるようになり、港と海の
食文化に気軽に親しめるイベントと
してすっかり定着し、集客の牽引力
になっています。
毎年8月を除く第2日曜日に旧魚
市場隣で開催され、定番企画として
生鮮魚介類や加工食品・地場産品の
販売や、一般消費者を対象にした「ミ
ニセリ」、「ちびっこ釣堀大会」、魚の
捌き方教室が毎回開催され、仮設食
堂では名物じゃこ天うどんや鯛飯等
が、このほかバーベキューがその場
で味わえるコーナーもあります。
そのほか月ごとに特別企画や新企

※4：八幡浜市役所水産港湾課へのヒアリングによる。



8月18日同市庁舎で行われたコンペ説明会の様子。企業・
団体・学生など約20名が集まり「みなとまち」のデザイ
ニングについて意欲あふれる質疑応答が行われた。

みなとオアシス登録港の夏

枝越港はしまなみ海道が結ぶ諸
島の一つ伯方島の南西に位置し、港
の背後には今治市が旧伯方町時代
から整備を進めていた海岸(延長4
10メートル)が平成17年度未完
成、人工海浜とワシントン椰子の並
木による造形美が印象的です。港の
周辺には海浜のほか、海水浴に備
え、シャワーやトイレなどの施設は
もちろん、屋内の催しなどに対応の
伯方開発総合センターがあります。
また、地場産品の販売や軽食を提供
する常設のレストランの入ったマ
リンオアシスはかたも営業してい
ます。
平成16年8月「みなとオアシス」
に登録、これらの施設は港における
地域振興に活用されています。

今春全延長供用開始された枝越港海岸では海水
浴にマリンスポーツに興じる人々が水しぶきを上げ、恒例の「しま祭り in はかた」にはおよそ2
万人(※5)が訪れる大盛況ぶり。オアシス内で
地ものの新鮮野菜をふだんに使った料理を提供
するレストランには地元の顧客のみならず、ス
ローフードを求めて島外か
ら立ち寄る旅客の姿も見ら
れるようになりました。

※5・6：値は今治市伯方支所産業観光課へのヒアリングによる。



写真上：伯方・大島大橋から見た「しま祭り」でにぎわう
枝越港海岸の様子。／下：枝越港海岸に憩う人々の様子。

八幡浜港

事業現場から報告



当所棧橋にて海面清掃兼油回収船2隻の雄姿。
写真左が「いしづち」、右が「おんど2000」。
船首に見える赤い放水銃で油の拡散作業を行う。

「いしづち」は油流出海域を航行しながら放水による油拡散の作業を行いました。翌日は四国地方整備局が応援を要請した中国地方整備局広島港湾・空港整備事務所配属される「おんど2000」も出動、同海域において同じく作業にあたりました。流出した油の防除作業は18日まで行われました。

海面清掃兼油回収船「いしづち」緊急出動

平成18年7月15日(土)午前5時00分濃霧の中、青島北西方約4・5キロメートル付近沖で貨物船同士の衝突事故が発生しました。

うち一隻が燃料油C重油40キロリットル・A重油15キロリットルを搭載したまま沈没し、海上に油が流出しました。

この事態による海洋汚染を防止するため第六管区海上保安本部から四国地方整備局が要請を受け、当所に配備されている海面清掃兼油回収船「いしづち」が油流出海域に出動しました。



「いしづち」の作業（放水拡散）の様子。
(左舷側から船首に向かって撮影。)

台風シーズンは終盤ですが、大雨の後は浮遊ごみの大量発生が心配されます。浮遊ごみに関する皆様の情報提供等よろしく願います。

(連絡先・代表 TEL089-951-0161 海洋環境課まで)

松山空港 エプロン事業進捗状況

松山空港では駐機場（エプロン）の現7番スポットを移設するため、それに伴う周辺施設の移設に昨年度より取り組んでいます。今年度はGSE通路の移設に取りかかり、5月に空港事業関係者に移設工事に関する事業説明会を行い、6月から工事着手し、9月に竣工しました。

工事はまず場周（空港の外と内を分かち境界）の移設に始まり、GSE通路の舗装（コンクリート舗装、アスファルト舗装）、歩道の舗装の順に施工しました。歩道は雨の日には道路表面に水たまりができない、透水性舗装をしています。また、場周に設けた柵のそばに外部から侵入を防ぐ



GSE通路をコンテナ貨物が運ばれて行く。
GSE通路は航空機をメンテナンスする車両や貨物を運搬する車両などの交通に利用される。

きみも見に来ないか。「いしづち」の活躍を。

今秋市内で開催されるイベントで「いしづち」を模型や写真で紹介します。ゴミ回収を疑似体験できるPCゲームコーナーも。ぜひご来場ください。

「みんなの生活展 2006」(主催：松山市・みんなの生活展連絡協議会) 日時：平成18年10月21(土)22日(日)両日とも10:00～16:00/場所：松山大街商店街/当所出展内容：パネル展・ビデオ上映など
「地球温暖化防止フェスティバル 2006」(主催：愛媛県地球温暖化防止活動推進センター) 日時：平成18年11月3日(金・祝) 9:00～16:00/場所：愛媛県民文化会館/当所出展内容：パネル展・模型展(1/60縮小のいしづちが登場)・PCゲームコーナーなど



晩夏太陽が昇る中、花火や空き缶など海岸のごみは今年も地元にお住まいの50名ほどの方々の手で一掃された。堤防の芝の緑や砂浜の美しさはこうして守られている。

松山港海岸和気地区 和気浜海岸清掃

夏季利用に配慮し休止していた工事は今年より堀江浜の堤防と権現川左岸の突堤の整備を行います。引き続き工事への協力と開放中の和気浜を美しくご利用下さいますようお願いいたします。